

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																												
エプソン情報科学専門学校	昭和63年12月5日	小林 敏一	〒392-0001 長野県諏訪市大和3-6-12 (電話) (0266) 58-7410																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																												
学校法人 エスイー学園	昭和63年12月5日	重本 太郎	〒392-0001 長野県諏訪市大和3-6-12 (電話) (0266) 58-7410																												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																											
工業	工業分野専門課程	情報システム科	平成7年度文部省告示7号	-																											
学科の目的	本校は「セイコーエプソン株式会社」が地域の強い要望である質の高い情報系、工業系技術者の供給に応える目的のために、工業分野の専門課程を設置し、技能および知識を修得させ、中堅技術者として社会に貢献できる人材を育成する。																														
認定年月日	平成28年2月19日																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
2年	昼間	2400時間	330時間	2070時間	0時間	0時間	0時間																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																										
100人	60人	0人	6人	5人	11人																										
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験成績に平素の学習状況、出席状況レポート提出有無等を考慮した総合点で評価																											
長期休み	■学年始:4月1日～4月13日 ■夏季:8月12日～9月12日 ■冬季:12月17日～1月7日 ■学年末:3月3日～3月31日		卒業・進級条件	卒業は各コースの履修科目の定められた全単位の取得および学生必須資格を取得したのものについて認められる。																											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 週一回のホームルーム他個別指導		課外活動	■課外活動の種類 スポーツ祭・学園祭など ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)																											
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) セイコーエプソンほか ■就職指導内容 1年次から、採用側の目線に基づく、実践的な就職対策授業。学生ひとりひとりに合わせた就職支援プログラム。 ■卒業生数 70 人 ■就職希望者数 69 人 ■就職者数 69 人 ■就職率 100 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 99 % ■その他 ・進学者数: 1人 (令和 2 年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>③ ※</td> <td></td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ※2020年度より受験申込方法が変更され、受験者数の把握が困難となった。</p> <p>■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等</p>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	基本情報技術者試験	③ ※		1人																
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																												
基本情報技術者試験	③ ※		1人																												
中途退学の現状	■中途退学者 2 名 令和2年4月1日時点において、在学者135名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者124名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ・進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・学科担当、ホームルーム担任、就職指導担当によるきめ細かい対応。 ・週一回のホームルーム、年一回の保護者懇談会等で情報交換を密にしている。		■中退率 1 %																												
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ・入学時負担軽減制度、エスイー学園奨学金制度、学費免除(特待生A制度、特待生B制度) ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																														
当該学科のホームページURL	https://www.se-gakuen.ac.jp																														

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業のニーズ(求人・育成)を逐次把握しながら「社会から必要とされる自立した学生」の育成を図るとともに、年々変化している「市場の技術動向」にあわせ、カリキュラムの最適化を進める。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

当校設立の母体であるセイコーエプソン株式会社をベースに教育課程編成委員会を組織する。

同社の専攻部門からの委員だけでなく、組織の要である人事部の部長および課長をも委員とする。

委員会において、現状の企業ニーズ、技術動向等を具申してもらい、カリキュラム内容を決定する

当校教務部にその意見を反映させる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
原田 英寿	長野県情報サービス振興協会 南信支部長	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	①
田中 秀樹	セイコーエプソン(株) 情報化推進部 社員	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	③

※委員の種別の欄には、**企業等委員の場合には**、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (第1回:7月～9月、第2回:1月～3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年10月20日 16:00～17:30

第2回 令和3年 2月12日 15:30～16:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

今年度では、以下を実施した。

・専門ゼミ「卒業研究」の時間増加。Pythonを含め多様な言語習得の場を設定。

・昨年新設しや「ロジカルシンキング」科目を継承。学生の興味を引くテーマ設定を行い理解促進を図り1年間を通じて論理力を磨く。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

当校設立の母体であるセイコーエプソン株式会社より当校に社員を外向させ、常勤教師として、

企業に求められる授業、カリキュラムを実施する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

セイコーエプソン株式会社外向社員が担当(授業の運営～生徒の評価)している。

対象科目は、以下のとおり。

全学科共通科目:「就職活動対策」、「数学基礎」、「ビジネス実務」「特別研修」。

情報システム科の専門科目は「プログラミング言語基礎」「C#言語」「Java言語」「データベース」「卒業研究」

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
就職活動対策	自分にとって働くことの意義について考え、自立して行動できることを目指す。面接対策等実践力を養う。	セイコーエプソン
数学基礎	数学筆記試験を突破するための基礎学力をつける。具体的には基礎的事項を復習し理解を深める。	セイコーエプソン
プログラミング言語基礎	プログラミング言語の基本であるC言語の基礎知識の習得し、プログラミングに必要な論理的な考え方を身につける。	セイコーエプソン
C#言語	C#によるデスクトップアプリケーション開発のプログラミング技術の基礎を習得する。	セイコーエプソン
Java言語	Java言語の基礎の習得と、GUIアプリケーションの作成で、Android用アプリケーション開発環境構築ができるようにする。	セイコーエプソン

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

関連分野の技術動向や企業が求める人材像に対応するため、教員は関連する知識・技術の習得に努めること。
職業実践専門課程運用規定(C710-ISC)で明確化。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「e-情報セキュリティ基本編2020(e-ラーニング)」(連携企業等:セイコーエプソン)
期間:6月24日～8月7日 対象:教職員
内容:最新の情報セキュリティについて学ぶとともに、そのリスクを理解し行動する。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「アンガーマネジメント基礎教育(叱り方)」(連携企業等:セイコーエプソン)
期間:2021年3月9日実施 対象:社員向け
内容:授業で、育児で、子育てで、介護で、、、私たちは様々な場面で様々な「怒り」に直面。
怒りの感情と上手に付き合うための心理トレーニング」をライフスキルとして身につけ授業に繋げていく。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「e-情報セキュリティ基本編2021(e-ラーニング)」(連携企業等:セイコーエプソン)
期間:7月7日～8月6日 対象:教職員
内容:最新の情報セキュリティについて学ぶとともに、そのリスクを理解し行動する。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「人事部主催研修」(連携企業等:セイコーエプソン)
期間:2021年度下期(2021/10/1-2022/3/31)実施予定 対象:社員向け
内容:指導力向上の趣旨にそう人事部主催の研修を受講する

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校評価を実施する。
保護者、卒業生、企業、企業団体から委員が参画した学校関係者評価委員会を設置し、自己評価の結果を踏まえてその評価を公表する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	① 学校の教育理念・目標
(2) 学校運営	② 学校運営
(3) 教育活動	③ 教育活動
(4) 学修成果	④ 学修成果
(5) 学生支援	⑤ 学生支援
(6) 教育環境	⑥ 教育環境
(7) 学生の受け入れ募集	⑦ 学生の受け入れ募集
(8) 財務	⑧ 財務
(9) 法令等の遵守	⑨ 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	なし
(11) 国際交流	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

- ・コロナ禍ではあったが、ON-LINE授業体制と構築を行いながらも感染者を出すことなくリアル授業実施できた事への評価を頂いた。
- ・当校の人間の心の育成について、周囲からの評判も良いし社会人として即行動に繋がるとの評価を頂いた。
- ・また当評価委員会において継続して各種項目の評価をベンチマーキングし、しっかりとPDCAサイクルを回して、改善、向上させている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
岩波 寿亮	諏訪市商工会議所 会頭	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	関係団体
溝口 貴久	セイコーエプソン(株) 人事部 部長	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	連携企業
待井 裕之	セイコーエプソン(株)	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	保護者
高嶋 克幸	(株)今井商工	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.se-gakuen.ac.jp>

公表時期: 平成26年10月以降随時

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校評価の公表をふくめ、学校運営の情報を積極的に提供すること。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	本校の強み、教育理念、学校評価
(2) 各学科等の教育	各コース
(3) 教職員	教職員紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職情報
(5) 様々な教育活動・教育環境	キャンパスライフ
(6) 学生の生活支援	キャンパスライフ
(7) 学生納付金・修学支援	学費のご案内、学費支援制度
(8) 学校の財務	学校評価
(9) 学校評価	学校案内
(10) 国際連携の状況	なし
(11) その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.se-gakuen.ac.jp>

授業科目等の概要

(工業分野専門課程 情報システム科)																
No.	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			英語基礎	英語のアレルギーをなくすために、自分の意思を簡単な英語で正しく伝えられるための表現、および基本的な文法を身につける。	1通	60	2		○		○				○
2	○			国語基礎	国語筆記試験を突破するための基礎学力をつける。具体的には新聞記事の要約を通して読解力をつけ、語彙力の定着を図る。	1通	60	2		○		○				○
3	○			数学基礎	数学筆記試験を突破するための基礎学力をつける。具体的には基礎的事項を復習し理解を深める。併せて計算の速度向上を目的として都度プリント課題による計算トレーニングを行う。	1通	60	2		○		○				○
4	○			就職活動対策	就活本番に備え、自分にとって働くことの意義について考え、自立して行動できることを目指す。前期は自己分析と職種研究を主体とし、後期は書類作成、面接対策等実践力を養う。	1通	60	2		○		○		○		○
5	○			ビジネス実務	就職活動をする上で、社会人としてのマナーが必要とされている場面で対応できる人材になるよう実践、実習を盛り込みながら習得する。	1通	60	4	○			○		○		○
6	○			特別研修	各学科別にふさわしいテーマを設定し個別指導または自主学習を行うことで各学生の重点分野の習得強化を図る。	1通 2通	120	8	○			○		○		○
7	○			文書作成・表計算	Microsoft Word, Excelの基礎的な操作を習得し、企業実務におけるビジネス文書作成能力やデータ処理、分析能力を身につける。	1前	30	1	○			○				○
8	○			コンピュータ基礎	コンピュータ及びネットワークのしくみを理解し、ハードウェア・ソフトウェアを使いこなせる人になるための基礎を学び、情報処理技術者試験合格に求められる基礎力を養う。	1通	120	8	○			○			△	○
9	○			プログラミング言語基礎(C/C++言語)	プログラミング言語の基本であるC言語の基礎知識の習得し、プログラミングに必要な論理的な考え方を身につける。	1通	270	9		○		○		○		○
10	○			C#言語	C#によるデスクトップアプリケーション開発のプログラミング技術の基礎を習得する。	2前	90	3		○		○		○		○
11	○			J a v a 言語	Java言語の基礎の習得と、GUIアプリケーションが作成できるようになることで、Android用アプリケーション開発環境構築ができるようにする。	2通	150	5		○		○		○		○
12	○			システム開発	システムとは何か、システム開発はどのような工程で行われるかを理解するとともに、システム上流工程の重要性を理解し、システム基本計画の策定の方法を体験する。	1後 2前	90	3		○		○				○

13	○		データベース	データベースとは何か、SQLとは何かを理解し基本的な操作が出来るレベルを目指す。また、MySQLを使用してSQLステートメントの基本を理解しデータベースの操作を習得する。	1通 2前	210	7		○	○	○	○
14	○		Web基礎	Webページの基礎技術であるHTML5、CSS3、JavaScriptを基礎から学習する。また、JavaScriptフレームワーク Vue.jsを用いたSPA作成の基礎を学ぶ。	1通	120	4		○	○	△	○
15	○		Web応用	Webのバックエンド技術とフロントエンド技術を並行して学び、自らの今後の技術領域に合った内容をより深掘できる・隣接する技術を知る。	2前	90	3		○	○	△	○
16	○		ロジカルシンキング	専門職遂行に必須な基礎の論理思考力を習得する。ミニテストと課題を繰り返すことで、論理を構成する情報構造の知識を習得し、根拠の明確な主張や議論が可能なレベルを目指す。	1通	120	8	○		○	△	○
17	○		卒業研究	2学年前期までに学習したことをもとに、自らテーマを決めて課題研究を行う。	2通	690	23		○	○	○	○
合計			17科目			2400単位時間(94 単位)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業は各学科の履修科目の定められた全単位の修得、および学生必須資格を取得した者について認められる。履修方法は講義受講又は演習の実施による。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。